

平成24年度研究成果報告書《平成23・24年度教育課程研究指定校事業》

ふりがな ふりがな 幼稚園・学校名 (園児, 児童生徒数)	あおもりけんりつ ごしょがわらのうりんこうとうがっこう 青森県立五所川原農林高等学校 (513名)
-------------------------------------	------------------------------------------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：青森県五所川原市大字一野坪字朝日田12-37

電話番号：0173-37-2121

メールアドレス：go-no-j@asn.ed.jp

学校のホームページ URL：http://www.seihoku.asn.ed.jp/~ah/

【研究成果のポイント】

○研究対象教科等：農業

○研究のキーワード： 農業の6次産業化, 農業生産工程管理, グリーン・ツーリズム, 五農チャレンジ

○研究成果のポイント：キャリア開発を目標とした農業教育の一分野として, 農業の6次産業化についての体験学習を実践することとし, 生徒全員が社員となる仮想のLLC(合同会社)を立ち上げた。実店舗での販売実習等を通じて実社会を体験することで, 生徒は専門的知識の必要性を感じ, 社会に参画する力を身に付けることができた。

【研究の目的, 研究内容】

(1) 研究主題

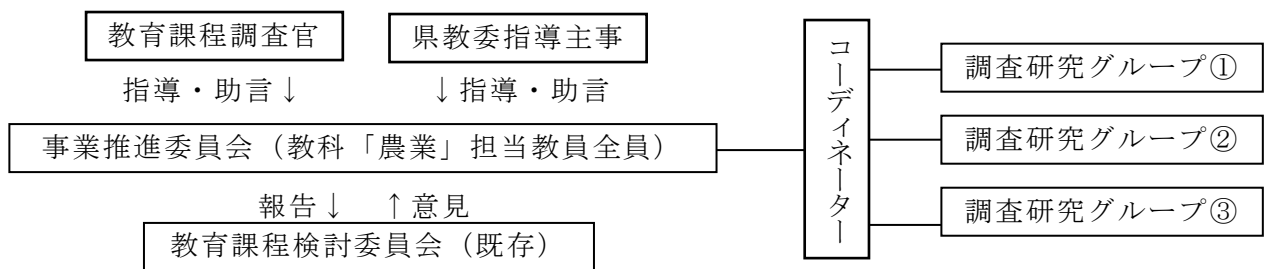
学習に取り組む主体的な態度や合理的な思考及び倫理的な姿勢を身に付けた, 将来の地域を支える人間性豊かな職業人を育成するための科目横断的な学習活動の工夫・改善

(2) 研究主題設定の理由

わが国の農業には, 農業者人口が減り続けているという大きな問題がある。その理由はいくつかあるが, 農業で生活が成り立たないことから自信を喪失し, 農業離れが進んでいることも一因である。しかし, 経営がうまくいっている農家には, 将来を見据え計画的に起業する後継者がいる。

このことから, 職能で重要な『知識』と『スキル』, 高業績者の成果達成の行動特性(『コンピテンシー』)を職業教育(専門教育)の柱にして, 生徒を指導することにより, 現代的課題の解決に迫ることができるものとする。農業の職業的特徴を考慮したカリキュラムを編成し, その柱として「農業の6次産業化」を取り上げ, 学科の特徴を示しつつもその枠を超えて学校全体(「チーム五農」として)で目的を一つにし, 実社会の中に学習の場を設定して体験的な学習に取り組み, 研究主題に迫った。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組の経過

平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事業推進委員会の組織 → 調査研究活動(各グループごと) ・学校設定科目「五農チャレンジ」の取組(生きる力(基礎学力)の補填) ・農産物のブランド化を図るための学習指導(減農薬減化学肥料での水稻栽培) ・「(仮想)街づくり五農農業会社」の設立(生徒が地域で学校農産物を販売) ・「五農ツーリズム」の企画・運営(生徒が農業体験学習を指導・支援) ・事業推進委員会の開催(課題の発見と解決方法の探究, 取組のまとめなど)
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「(仮想) 街づくり五農農業会社」の更なる充実 ・環境保全型農業の推進（地下かんがいによる乾田直播栽培，田畑輪換） ・6次産業化の理解と推進（生徒への周知） ・「五所川原6次産業化推進協議会」設立（マイファーム構想のモデル化実証） ・事業推進委員会の開催（2年間のまとめ）
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- 農業における倫理的責任，農林業の技術者倫理に関する授業
倫理観を育成するための教材として，環境保全型農業や食の安全・安心，循環型社会の構築を選択し，農業科全科目で横断的な指導ができるようにした。
- 「(仮想) 街づくり五農農業会社」の設立
「地域住民の豊かな生活に寄与する」ことを目標に仮想のLLC「(仮想) 街づくり五農農業会社」を立ち上げ，生徒全員が社員となり，農業の6次産業化を目指した。農業科教員も専門分野（所属学科）にとらわれず，一つのチームとして会社運営・社員教育を担当した。
- 農産物のブランド化（減農薬・減化学肥料での水稻栽培，農業生産工程管理に関する学習，知的財産権に関する学習）
 - ・認証制度に則った水稻栽培について体験的な学習方法を研究し実践した。
 - ・農業生産工程管理による管理手法を学習内容に導入し，シラバス作成に生かした。
 - ・果肉まで赤いりんご「御所川原」の商標「てれやさん」を取得した。
- 学校農場（地域資源）を活用したグリーン・ツーリズムの取組
農業体験を生徒が企画・運営できるような指導方法を研究・実践した。その結果，生徒が保育園児と小学生を対象にしたプログラムを作成するとともに，農業体験学習の指導・支援に意欲的に取り組んだ。生徒は「教えることによって学ぶ」体験を通して，農業の大切さや楽しさを体感し，実践することができた。
- 6次産業化の取組
校内において6次産業研究班を設けるとともに，全校生徒に6次産業化についての周知を図った。「五所川原6次産業化推進協議会」を設立し，高校生も参画させることにより，街づくり及び地域農業の担い手のモデル化として位置付けることができた。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

「(仮想) 街づくり五農農業会社」を設立し，生徒が活動する中でコミュニケーションスキルを身に付けさせることができた。農業体験の指導・支援や販売実習等，日頃の学習成果の確認と検証，発表する機会を拡充することができた。また，農業高校生として地域の活性化のために実践できることを考えるようになった。農産物のブランド化を図るための学習として，減農薬・減化学肥料での水稻栽培への取組を通し，付加価値の高い農産物に対する生徒の興味・関心を高めさせることができた。

（２）研究成果の意義等

仮想のLLCによる農業の6次産業化について学習させるため，教育課程に全学科共通の履修科目「グリーンライフ」を設定し，全校体制で取り組んだ。これが事例となり他の高等学校が実践する場合の参考になると考えられる。また，農業生産工程管理に関する指導内容を精選し，その指導方法の研究と実践を通して，新学習指導要領における指導の在り方の一例を示すことができる。さらに，生徒が計画・実践したグリーン・ツーリズムのプログラムを情報発信することにより，地域や他の高等学校において，地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムの創出と発展につながるものと考えられる。

（３）指定期間終了後の取組

「五所川原6次産業推進協議会」の設立において，これからの農業におけるIT活用モデルを構築して，マイファームセンターを稼働し，生産者と消費者の仲介役を担う「農業の五所川原モデル」を発信する。また，「(仮想) 街づくり五農農業会社」の充実及び活用と6次産業化の推進により，高校生を加えた産官学をマネジメントし発信する。